

ジーク2030年ビジョンの策定に向けて

今般、長期的に当社が目指す方向性を表現したステートメントとして、「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」を掲げました。

このステートメントの下、企業体質の更なる向上に取り組み、持続的な成長と進化を目指します。



**情熱と革新を融合させ
人とクルマのより良い未来をかたちづくる**

○ ジーク発足後の振り返り

自動車業界は、「CASE」と呼ばれる、「つながる」、「自動運転」、「共同所有」、「電動化」の動きが加速し、100年に一度の大変革期を迎えていいます。更には、カーメーカーは、IT企業と協業し、自動運転技術やライドシェアサービス等を提供する「モビリティ・カンパニー」への変化を図っています。環境問題が深刻化し、欧州・中国を中心にEV化が進展しています。当社は、こうした事業環境の激変をチャンスと捉え、革新的な技術力と販売力、人財力を備えたサプライヤーとして、熾烈な競争を勝ち抜くための経営努力を重ねてきました。

2016年4月(第6期)の新体制発足と同時に、連結売上

高3,000億円、連結営業利益200億円の中長期経営目標を掲げ、技術、販売、人事の三つのイノベーションを推進してきました。

技術面では、軽量化のためのウルトラハイテン材のプレス加工技術、ホットスタンプ技術、車体性能解析技術などの進化を推進しました。これをもとに、販売面では、カーメーカーに次世代の軽量で高剛性な車体の提案を行ってきました。2019年3月期は、こうした数年にわたる事業活動の成果が得意先の受注原単位の増加や他社販売のグローバルな拡大として結実しました。



○ 「量」を超える「質」の向上

量的成長を遂げてきた一方、100年に一度の大変革期の中、持続的な成長と進化を確かなものにしていくためには、「量の成長」を凌駕する「質の成長」が重要だと考えており、現在、生産現場をはじめとしたハード面の改革に加え、組織・人事といったソフト面での改革を推し進めています。

まず、ハード面での改革では、「生産性向上プロジェクト」を立ち上げ、生産体質の改革に取り組んでいます。

一方、ソフト面の改革では、RPA (Robotic Process Automation)による間接部門の生産性向上を図っています。今後、このような取り組みを、グローバルに展開し、無駄のない、より生産性の高い仕事に変えていく計画です。

そして、現在、最も重要な取り組みの一つと位置付けているのは、ダイバーシティです。

「ダイバーシティ推進委員会」を立ち上げるなど、多様性を加速させるための基盤づくりを行い、持続的な成長と進化に向けて、これまで以上に強力に推進していきたいと考えています。

以上のような課題認識を踏まえ、将来的な企業体質を総合的に向上させるため、現在「2030年ビジョン」プロジェクトを立ち上げ、10年後のジークのありたき姿を構築中です。企業が将来にわたって持続的に成長するには、何より「人財」が重要です。また、大変革期を生き残るには、「技術革新」が欠かせません。そして、その人財と革新的な技術が最大限活かせる土壤づくりとして、企業体質を一から見直す「構造変革」も必要です。更には、ESGを中心とした企業の「社会貢献」を果たすことも重要です。

このそれぞれのキーエレメントを誰もが共感できる形で言葉にしたのが、2030年ビジョンのステートメント「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」です。今後はこのステートメントの下、企業体質の更なる向上に取り組み、10年後もその先も、持続的な成長と進化を遂げる強い企業を目指してまいります。

2030年に向けてのキーエレメント

人財

企業を動かすのは人であり、その人がより良いものを生み出そうとする強い信念(情熱)をもって取り組む

技術革新

時代を先行く革新的な発想で、これまでにない新しい価値を創造する

構造変革

優れた人財と革新的な技術を最適に掛け合わせる(融合)ことによって最高のアウトプットを可能とする

社会貢献

最高のアウトプットを世界中に提供することで、人とクルマが共存共栄する豊かな未来に貢献する

情熱

革新

融合

未来を
かたちづくる

2030年ビジョンステートメント

**情熱と革新を融合させ
人とクルマのより良い未来をかたちづくる**